

デスゲームおかあさんといっしょ解説本 ～web再録編集版～



このスライド集は2024年2月のコミティア147で頒布した無料配布本の中から『デスゲームおかあさんといっしょ』の解説部分をWEB用に編集し再録したものです。内容に大きな変更はありませんが、ゲームのアップデートに伴い加筆修正した箇所がいくつかあります。あと検閲が怖いので物騒な単語を一部伏せています。あしからず。

※全編ネタバレなのでゲームを遊んでからお読みください

目次

1. ストーリー解説

2. キャラクター解説

更新履歴 2024/04/29 公開

1. ストーリー解説

タイトル画面の話

デスゲームおかあさんといっしょ -DeathGame Mother killed me-

詐欺タイトルです。どこかで聞いたことがあるフレーズをタイトルに使用したのは、主要キャラにママがいること、そしてヒロインが人妻であることを初見の人に瞬時に理解させるためのレトリックです。実際本作、人妻に釣られたプレイヤーさんがたくさんいらっしゃるようなので人妻ヒロインはとても需要がある……

英題と後半の章タイトルの元ネタはマザーグースです。

タイトル画面などで流れるオルゴールの曲『Rock A Bye Baby』もマザーグースです。なお、現時点で多言語翻訳の予定は一切ありません。

参考: [“Rock a Bye, Baby”「ロッカバイ・ベイビー」の歌詞\(Lyrics\)と日本語訳](#)

1. ストーリー解説

CHAPTER 1-1

デスゲーム？おかあさんといっしょ

主人公がオンラインビデオ通話アプリ『ROOM』に入室したところから本編開始。状況説明兼あらすじを開始15クリックで完結させキャラの掘り下げにたっぷり尺を使いました。このあたりのペース配分および調整は前作で死ぬほどやってきたので今作に活かせるようなそうでもないような。

自己紹介パートは伏線だらけです。ほぼ伏線で会話しています。ここで語られるイズミの家庭の話は真実。嘘をつく理由がないのでツカサとカナガ以外みんな本音で喋っています。また、主人公がイズミのことを実年齢よりずっと若いと誤認しているのは主人公が若くないからです。最年長者である主人公には参加者達もサエコも皆一様に“若者”に見えるため立ち絵(顔)も普段より気持ち幼めにデフォルメしました。

1. ストーリー解説

チャプター1-2

デスゲーム？おかあさんといっしょ

ゲームのルール説明からデフォルメ→リアルへの転換。例の事件相関図に使われている写真は生成AIによる実在しない人間の顔写真です。本物の人の写真を使った方がリアルになるのですが、使い方が使い方のため写真の人物が実在しないこと・フィクションであることを示すためにあえて生成AIを使用しました。

サエコの動機を知った後の参加者達はキムラ母娘への同情と世間の人達への怒りと個人的な目的から各自ゲームに参加する意思を固めていきます。プレイヤーの意思を反映する主人公だけが中立の立場です。ゲームに参加しない＝サエコとその娘ミカに関心が無いという意味表示のためゲームを拒む選択肢を選ぶとそのままゲーム終了。サエコは自分に関心を持たない人間を憎みます。ウマヤが“棄権する”と言ったら急に冷たくなるのもアレは怒っているのです。

※Ver1.02で画像を一部変更しました。現在は生成AI不使用になっています。

1. ストーリー解説

チャプター2

つみびとこぞりて

参加者達の背景をさらに掘り下げ。殺…の様子は直接描きませんでしたが、ウマヤのサンタのバイトの話、イズミの素性や殺害方法、カナガの前科など、結末に繋がる情報が会話中にたくさん盛り込まれています。詳細は[キャラクター解説](#)にて。

最後のジングルベルがループ再生しないのは仕様です。実況動画では軒並み無音エンディングですが、黙読ならクレジット終了くらいに曲が終わるんじゃないかなあ。

1. ストーリー解説

チャプター3-1

The cradle will fall

参加者達が退室して数時間後、サエコを諭そうとする主人公ですが復讐を完全に否定することができないのでまんまとサエコの策略に嵌ってしまいました。サエコの怒りと嘆きは“何もしない人”に向けられた本心の訴えであると同時に、何もしない主人公を動かすためのダメ押しの一手です。

ツカサはミカの仇討ちのためにゲームを計画しましたが、サエコの目的は初めから主犯格の少女と何もしない全ての人々をより多く長く苦しめること。デスゲームに無関係の人を巻き込まないためのルールがないのはそういうことです。無関係の人を巻き込まなければ良いということでもないですが。

★追記: サエコの「躰のなっていない馬鹿な子供」とオザワの「煩わしいしつけ糸を(略)」が対になっているとか誰も気付いてくれなそうなのでここでネタばらしするのだった…

1. ストーリー解説

チャプター3-2

But mama will catch u Cradle and all

惨劇が終わってサエコは捕まり、参加者達のその後は不明。サエコは娘の仇ほぼ全員の死を確認し主犯格の少女に一生の傷を負わせ、最後に自分が捕まることで再度娘の死とその応酬を社会に知らしめ、余生は安全な刑務所の中で過ごしましたとさ。最後の「あなたがたのうち、だれがわたしに罪があると責めうるのか」とはヨハネの福音書の1節。実はこのラスト、映画『教誨師』の悪質なオマージュだったりする。

作中で何度か登場人物達を「鬼」に喩えています。人の社会を追われ隠れて生きてきた参加者達と、同じく学校という社会で永遠に居場所を失ってしまったミカ、人の道を自ら外れて行くサエコとツカサ、鬼籍に入れられた加害者多数、そしてサエコの復讐によりこれから一生逃げて隠れて生きていかなければならなくなった主犯格の少女。そんな彼らに対して主人公が導き出した結論は、前作(『坩×喋～Trash×TALK～』)で入れられなかった“無敵の人”に対する回答になります。

1. ストーリー解説

おまけ1

ノベコレの作品紹介画像に仕込んだネタ



キャラクター紹介

簡潔でわかりやすいキャラクター説明。みんな人妻が大好き…と見せかけてちょっと違います。

ツカサの“人妻が好き”はサエコを慕っているという意味ですが、ウマヤの“母親が好き”は自分の母親のことです。カナガの“人の妻が好き”は昔、友人の婚約者(殺…済み)に片想いしていたという匂わせ。

右上の人はただの性癖です。

1. ストーリー解説

おまけ2

ノベコレの作品紹介画像に仕込んだネタ

ファンアート
ください！



クッキーちゃん

本編に一切登場しないマスコットキャラ。

ゲームが完成してからそういえばデスゲームなのにマスコットキャラがないな…と思い秒で作りました。本編に登場しないので大した設定もデザインも何もありません。テキトーに色々なアレンジレシピを考えて描いていただければと思います。

本編外ではファンアートをねだる強欲キャラとしてよく働いてくれています。

1. ストーリー解説

おまけ3

ノベコレの作品紹介画像に仕込んだネタ



人妻(秘)フォルダ(♥18)

本編で偽エンディング(クレジット)を見た後に追加される tempフォルダは参加者達がサエコに送った 死…の写真フォルダです。

イラストには18件の通知アイコンを付けなんとなくエロそうな感じにしました。18は…体の数です。

2. キャラクター解説

キムラ サエコ

N市中学生いじめ■■■事件の被害者の母親。キムラ母娘の事件の話は近年報道された複数のいじめ・虐待・体罰・誹謗中傷事件をモデルにしています。覚えていましたか？

画面に映るサエコの姿はフェイク動画です。ネグリジェ姿の人妻は存在しません。しかし、自己紹介で話した内容は全て真実。サエコは初めから参加者達の情に訴え利用するつもりで娘が生きていた頃の話をしました。

ルール説明のパワポは本作屈指の癒しポイント。PC作業は全てツカサ任せなので、サエコは参加者達を説得するだけで良かったのですが機械に疎いママセンスを遺憾なく発揮しプレイヤーの皆さんを地獄に突き落としてしまったらしいです。



2. キャラクター解説

キムラ サエコ

生き残った少女の歩む道は想像を絶する地獄です。見知らぬ大人達に襲われた恐怖は一生消えません。そのうえ、親も友達も恋人も皆殺されてしまった彼女は完全に孤独。サエコの本懐は次の冬が来る前に叶うでしょう。

★追記:遊んでくれた方からサエコが参加者達を巻き込んだ理由について、”ネット上に犯罪者として名前が残り、忘れることも忘れられることもできない人達だから”という考察をいただき、なるほどエモい…となりました。

サエコの動機は自分だけが娘を想い続ける孤独と忘れていく人々(加害者含む)への逆恨みめな憎悪なので、参加者達に対しては前科の有無に関わらずフラットな印象です。一方、ツカサは社会からはみ出た彼らのことを軽蔑していて、最初から駒として使い捨てる気でした。参加者を集めたのも実はツカサです。



2. キャラクター解説

小澤 孝俊（おざわ たかとし）

本作で一度も顔が出てこない主人公。モデルはいません。名前も元ネタは特にありません。

20歳の時、衝動的に母親を殺…しています。彼の参加理由は作中でガッツリ語られていますが、あのモノローグだけで主人公が還暦間近のおじいさんということに気付けた人はいるのでしょうか？一応、若者には見えないよう一人称視点は気を付けて書いたつもりです。

サエコの服装を“ネグリジェ”と表現しているのも還暦間近の男から“ベビードール”という単語は出てこないだろう…というこだわりのワードチョイス。



2. キャラクター解説

小澤 孝俊（おざわ たかとし）

参加者も主催者も皆、深い孤独を抱えています。オザワは前科者の自分を受け入れてくれた会社が無くなり仲間と生きがいを一っぺんに失った寂しさから“闇バイト”という社会の暗闇に足を踏み入れてしまいました。金銭目的でなく、なんなら捕まっても良いと思っただけの行動です。

他の参加者達も罪を犯す前から社会に必要とされず見放されてきた寂しい人々ゆえに、社会に傷つけられたキムラ母娘を助けたという気持ちは純粋なものでした。オザワだけ闇を抜け出せたのは会社の人達に手を差し伸べられ親切にされた優しい思い出があるからです。



2. キャラクター解説

泉 燈実 (チェン・トンシー/いずみ とものり)

彼の境遇は巢鴨子供置き去り事件を参考にしています。
なお、現実の事件と異なりイズミは日本人ではありません。

恋人の家に行ったきり帰ってこなくなった母親の代わりに歳の離れた弟達を世話しています。父親はいません。言葉も法も人を頼る術も知らず幼い頃から手を汚して生きてきました。弟達と犯罪組織だけが彼の仲間であり唯一の居場所であるため、それを壊して引き離そうとする警察を憎んでいます。

彼がサエコに対して好意的なのは同情心や恋愛感情だけでなく子供(弟達)を想う気持ちがわかるため…しかしヤクザ、報復のやり方は誰よりもエグいです。大昔の中国にあったと言われる凌遲刑を実践しています。
※かなりグロい画像が出るかもしれないので検索しない方が良いでしょう。

名前は音の響きで決めました。発音わかりません。



2. キャラクター解説

嘉寿 大星（かなが たいせい）

彼の設定は座間9人殺害事件を元に考えました。カナガはSNSで■■■志願者を集め殺害した猟奇殺人鬼です。しかし彼は精神疾患を理由に罪に問われず長い間入院していました。“責任能力が無い”と診断された人間が何に怒り、何を恐れるか、そういうことを考えて作ったキャラです。

“死者の声が…”と話すカナガが回想しているのは■■■志願者達を殺している時の記憶です。カナガは自分が死者の代弁者になったと思い込みシャーマンの真似事に興じているのですが、彼に聞こえている声は死者の声などではなく被害者達の死ぬ間際の言葉です。



2. キャラクター解説

嘉寿 大星（かなが たいせい）

結末で女性ばかり殺しているのはSNSで彼の誘いに乗ってきた
■■志願者の多くが女性だったため。ウマヤが本当は殺されるつもりでデスゲームに参加したと明かした時、カナガはウマヤも殺すか迷っています。

名前や造形はマリのドゴン族をモチーフにしました。しかし言動はまったく異なっています。ドゴン族は争いを避ける穏和な民族で仮面は先祖の霊を讃える祭に使う物なのですが、カナガは死んだ両親や殺害した人々を自身に憑依させる呪具として使っています。

★追記：頭のもサモサは髪の毛ではなく藁です。



2. キャラクター解説

ツカサ

ミカを救えなかった後悔と、最愛の娘を失い苦しむサエコのために復讐を決意した少年。デスゲームの真の主謀者。本名不明。モデルはいません。15歳。

本来は優しく穏やかな子です。優しいが故に復讐を本当にやり遂げてしまいました。一発勝負のデスゲームで大勢の大人を騙し操り、ゲームが始まってからはミカの仇が殺されていく様子を安全な場所で眺めていた恐ろしい子。

★追記:ツカサの立ち絵の背景は彼の自室です。暗いです。

他キャラの背景

イズミ…上海の夜景(故郷の都市への憧れ)

ウマヤ…南国の海(冬が嫌い)

カナガ…砂漠(ドゴン族イメージ)

サエコ…ホテルの部屋(ハニートラップ)



2. キャラクター解説

ツカサ

(意外とツッコまれていない)ツカサが復讐をデスゲームにした理由ですが、1つは標的の命を弄ぶのが目的だからです。被害者がされたことをやり返しても加害者達に同じ苦痛を与えることはできません。遊び感覚で人を死に追いやった者への報復は同じように遊びすべきという考えでゲームに仕立て上げました。

もう1つは復讐を短期間で終えるためです。警察が動く前に標的を全員殺…するには人を集めて一気に片をつけるしかありません。また、殺…を代行してくれる人間を集めるのは難しい上リスクが高いため実行役はプロではなく単に扱いやすい人間を選んでいきます。その選別方法がデスゲーム。罪を犯すハードルが低い前科者や社会に恨みを持つ人、社会に居場所がない人を狙い撃ちしています。主犯格の少女を助ける役のオザワだけサエコがスカウトしました。



2. キャラクター解説

厩 暮人 (うまやくれひと)

直接のモデルはいません。袴田事件など冤罪に関する事件の本から着想を得ました。苗字はイエスが生まれたという厩戸、名前はドイツの黒いサンタ「クネヒト・ループレヒト」→「くれひと」です。

彼は長年、街の人間に不信感と憎しみを抱いています。10年前の話は彼とまったく関係のない通り魔が凶器をサンタの袋に隠したせいで起きた冤罪。ウマヤは逮捕されませんでした。警察に連れて行かれるところを大勢の人に見られてしまい警察でも酷い扱いを受けました。それから彼は他人の目を恐れるようになり、以来一度も家の外に出ていません。食事や日用品は配達で生活費は両親に頼りきり。希望がありません。



2. キャラクター解説

厩 暮人 (うまやくれひと)

デスゲームに参加したのは誰かに殺してもらうため。

“■■できないから殺してほしい”という願望に“死ぬことで人の役に立ちたい”という善意が混ざった救いようがない■■願望です。考え方は死刑になりたくて人を襲う身勝手な殺人犯とあまり変わりません。服のシミはミスリードですが、彼の子供を庇う優しい発言の裏には“大人なら傷つけても良い”という悪感情があります。サエコの想像ではウマヤが一番多く人を殺していますが真実は闇の中…

ちなみに作中の掲示板に書かれた“10年前にも生徒が■■している”という情報は学校や社会の体質が10年前から何も変わっていないことを示しています。

